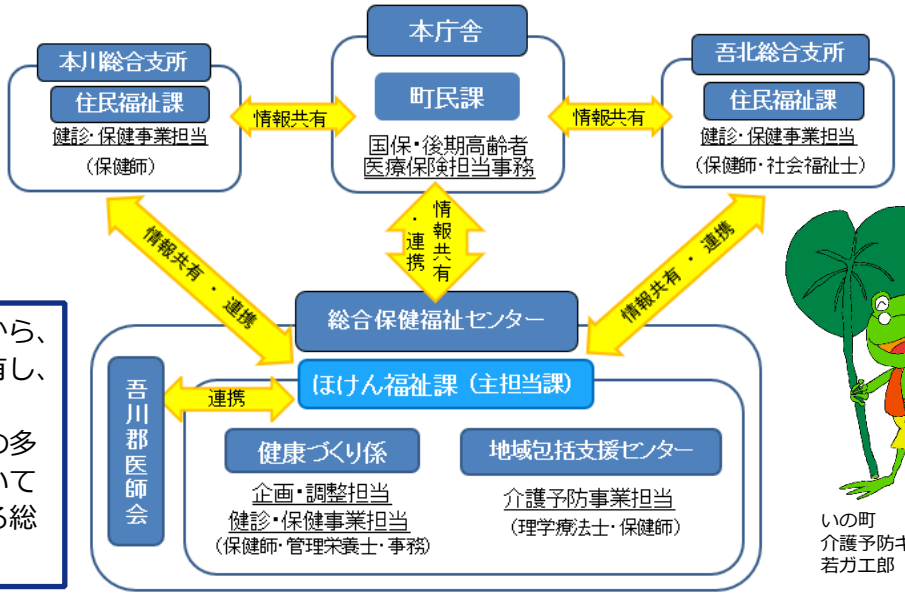
高知県いの町 ーみんなでもっとフレイル予防！ー

町民力の地域活動と庁内外の連携により継続した活動をめざす！

町の概況（令和５年３月３１時点）	
人口	21,391人
高齢化率	40.55%
後期被保険者数	4,648人
日常生活圏域数	１圏域

実施体制

（令和５年４月１日現在）



いの町
介護予防キャラクター
若ガエ郎

取組の経緯

- 後期高齢者への積極的な保健活動は不十分であったが、各種データの分析等から、介護予防と高齢者の健康問題を関連付け、健康課題の解決に向けた認識を共有し、課全体で取り組む必要性を感じていた。
- 後期高齢者の健診・医療・介護予防について、保健事業担当と介護予防担当の多職種の者で取り組み、フレイル対策についても住民主導の地域交流の場において継続的な活動ができるよう、ほけん福祉課が中心となり、健康、生活に関する総合的な支援を目指し開始した。

企画調整・関係機関との連携

- **庁内連携**

平成30年度のデータヘルス計画策定をきっかけに、町民課とほけん福祉課による保健事業推進ワーキングチーム定例会を立ち上げ、２か月に１回程度情報交換を行っている。

- **医療関係団体等との連携**

20年以上前から、町長、町内医療機関を交えて、保健事業、介護保険、介護予防活動等の事業実施報告を行っており、医療機関と良好な関係性を築いている。

事業開始前には、吾川郡医師会の理事会に参加し、本事業への協力を求めた。

また、町民課とほけん福祉課の多職種の者（保健師・管理栄養士等）が２名１組で各医療機関を訪問し、特定健診に係る説明等も行っている。

ハイリスクアプローチ

- **健康状態不明者の把握**

医療・レセプト情報のない方が微増していることをきっかけに実施。対象者にアンケートを送付し、未回答（未返信）の方から訪問を開始。

その際、健康づくりと介護予防の両面からアプローチを可能にするため、保健事業担当及び介護予防担当が２人１組で訪問している。

更に、訪問は、職種もしくは経験年数が異なる者を２人１組とすることで、人材育成にもつながっている。

多職種の者（保健師・管理栄養士等）でチームを組んで地域活動を行い、町独自で質問票のアセスメントのための「ハイリスクアプローチフローチャート」及び「対応マニュアル」を作成し、説明内容に齟齬が生じないよう工夫している。

ポピュレーションアプローチ

- **健康教育・健康相談**
- **通いの場等におけるフレイル対策の啓発**

町内に約60箇所（休止中を含む）ある体操グループのうち、複数グループにおいて実施。

【医療機関へのアプローチ】

吾川郡医師会理事会に対し、事業説明、データから見える町の現状、連携に関する依頼概要を説明。

【参加者へのアプローチ】

・後期高齢者の質問票に回答してもらい、その結果を体操グループごとにデータ化。

・３か月後にフォロー支援を行い、フレイルについて認識できているかを確認。再度、フレイル対策について周知し、通いの場等への参加継続の意義を伝えている。

高知県いの町

事業結果と評価概要（令和５年度事業開始・令和５年度10月末現在）

		対象者数	参加者数	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスクアプローチ	健康状態不明者対策	22人	①アンケート郵送結果 返信有12人 返信無10人 ②訪問による面談 訪問済16人 （４人訪問予定） ※訪問拒否２人 （電話訪問を実施）	①健診受診した人数 ②医療・介護サービスにつながった人	①０人 ②１人（返信無のケース。介護保険サービス開始） ※その他　全対象者の生活状況について確認済（電話訪問２名含む）
ポピュレーションアプローチ	通いの場におけるフレイル対策の啓発 健康教育・健康相談	14グループへ２回支援 ↓ 87人×２回	・１回目支援 11グループ　58人 ・２回目支援終了 ２グループ　11人	①２回とも通いの場に参加した人数 ②ハイリスクアプローチにつないだ人数	①11人 ②０人

・事業開始に向けて、事前に企画調整担当者から３職種代表（保健師・管理栄養士・理学療法士）に課題提示・実施方法等の提案を行い、協議を重ねた。これにより、事業実施に当たり職種の偏りがなく足並みを揃えて取り組むことができている。また、３職種の代表者は企画調整担当者を支える立場となっている。

・ハイリスクアプローチ、ポピュレーションアプローチとも、健康状態や生活状況についてそれぞれの専門職の強みを活かし、多方面からの関わり・支援ができることを目指した。

・ハイリスクアプローチでは、本人だけではなく家族にも説明する機会ともなり、訪問の目的や健診受診についての意義を理解してもらうことにつながった。

・健康状態不明者への訪問がきっかけとなり、新しく立ち上げた体操グループへの参加につながった例もある。更に、対象者が知人等に体操グループ参加への声掛けをしてくれることで、結果として地域のつながりが強化された。

・医療専門職だけで取り組むのではなく、データを元にした資料等は事務職が作成するなど連携して事業を実施している。

課題・今後の展望

- ハイリスクアプローチでは、本人や家族から訪問を断られる例もあったので、介入のためのアプローチ方法を検討中である。
- フレイルの認知度を上げるためには１回の説明では難しく、地域の集いの場を利用して、くり返し継続的に取り組む必要がある。
- 個々の健康意識を高めてもらうためにも、体操グループごとの特徴・傾向を分析・見える化し、フィードバックする予定である。